

# 新しい公共の場づくりのためのモデル事業

県民参加の県づくり（新しい公共）推進事業のうち、多様な主体による地域課題解決のためのモデル的な取り組みについて紹介します。今年度は、25件の応募の中から6件の事業が採択され、現在取り組みが進められています。

## ❖ かみのやま温泉EVエコタウンプロジェクト事業（採択額995万円）

かみのやま温泉EVエコタウンプロジェクト事業推進協議会（上山市観光物産協会ほか）

上山市では「健康・環境・観光」を3つの軸とした「クアオルト」という質の高い滞在型温泉保養地づくりを目指しています（クアオルト：ドイツ語で「保養地療養地」）。環境分野の取り組みでは、観光客の2次交通の足として電気自動車（Electric Vehicle=EV）を積極的に導入するため、充電器などのインフラの整備を図り、環境に配慮したまちづくりを進めます。

今年は、かみのやま温泉の9軒の旅館で普通充電器を設置し、EV（日産リーフ）を無料で貸出しています。また11月には市役所に急速充電器を設置し、太陽光発電とセットで、電気の使い方の普及も含めて展開しています。

来年は山形新幹線20周年なので、新幹線+EVレンタカーで旅ができるよう、新幹線沿線市町で取り組みが広がるよう働きかけしていきたいと考えています。将来的には、かみのやま温泉駅から蔵王お釜までの無料シャトルバスに、電気バスを導入したいと考えています。

温暖化が進み、あと30年で樹木が見られなくなると言われているいま、地域に生きる私たちの未来に向けた具体的な取り組みが必要だと思えます。



## ❖ 「モンテディオ山形」と歩む山形百年構想実践プロジェクト（採択額991万円）

J1元気プロジェクト会議（社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会ほか）

近頃は山形でも核家族化が進み、共働き世帯も増えていることなどから、昔に比べて親と子の関わり方もずいぶん変わってきていると言われています。私たちはモンテディオ山形をもっと身近な存在に感じてもらいながら、親と子が直接触れ合える時間や場を創出すると共に、地元への愛着も深めてもらうことなどを狙って、「絆再生へのエール事業」を展開しています。

この事業では、「絆リボン」を3万本制作して学校やスーパーで配布し、モンテディオ山形のホームゲームに足を運んでもらうきっかけづくりをする一方、スタジアムでは託児サービスの提供や授乳室の整備、子ども向けのイベントを行うなど、来場して下さった方々に楽しんでもらえる雰囲気づくりをしています。試合観戦後は、たくさんのお子さんが笑顔で帰っていきます。

このほか、スタジアムの環境美化や街なか活性化、農村振興などテーマ型で合計4つの事業を展開しています。いずれもモンテディオ山形との協働で実施しており、ホームタウンの元気づくりを進めています。



## ❖ 鳥海山アウトドアパワーイニシアチブプロジェクト（採択額250万円）

鳥海山シートゥサミット推進協議会（（特活）元気王国ほか）

秋田・山形両県にまたがる鳥海山を自然観光資源としてとらえ、環鳥海地域四市町と民間団体、そしてアウトドアメーカーである株式会社モンベルが共同で行った事業です。海から山頂へ一気に駆け上がるイベントですが、前日には環境シンポジウムを開催し、「鳥海山の豊かな自然環境がもたらす食の安全」をテーマにパネリストそれぞれが多様な意見を交わし、遠くは神戸からも参加いただき、多くの方々に山形の魅力をアピールする機会となりました。

イベント当日は天候にも恵まれ、鳥海山のダイナミックな自然を存分に楽しむことができ、広域連携、そして民間の活動を行政の方々バックアップをするという新しい形での事業となりました。今後も活動を継続するとともに、鳥海山を通じてこの地域を全国発信していきたいと考えています。



## ❖ つながろう！ささえあおう！復興支援プロジェクトやまがた（採択額715万円）

つながろう！ささえあおう！復興支援プロジェクトやまがた（（特活）山形の公益活動を応援する会・アミル、（特活）Yamagata1、（特活）ディー・コレクティブほか）

東日本大震災後の山形県内における支援活動を展開しています。

特に山形県内には原発関係による避難者の方を中心に、13,000人を超える皆さんが避難されています。

皆さんへの情報提供ツールとしての情報誌「うえるかむ」の隔週発行や、まだまだ不足している宮城県沿岸部の多様なボランティアニーズへの対応、県内避難者の皆さんの調査などを主に行っています。

また、ホームページやブログ、ツイッター等を使った情報発信や収集も積極的に行っており、これらのツールを経由して物品提供のお申し出や、ボランティアへの参加希望、お問い合わせなども多数いただいております。被災者の隣人として、山形からの応援をたくさんの方たちが希望され、その窓口になっていることに責任の重大さを感じながら日々活動しています。

復興支援センターやまがたHP <http://kizuna.yamagata1.jp/>



## ❖ 橋詰のランドマーク旧イチローチ商店の再生・活用を通じたまち・川再生プログラムの実践（採択額388万円）

イチローチ・まち・川再生プロジェクト協議会（（特活）公益のふるさと創り鶴岡ほか）

鶴岡市の中心部を流れる内川のランドマーク大泉橋のたもとに建っている旧イチローチ商店を中心に中心市街地の活性化の新しい公共モデルを構築するため協議会を発足しました。その手法として6つのプロジェクトを立ち上げました。

- ① 専門家によるまちづくり戦略会議
- ② 旧イチローチ商店および内川の景観ワークショップ
- ③ ストリートマネージャーの育成
- ④ 旧イチローチ商店の建物調査および改修
- ⑤ まちづくり中間支援機能の構築
- ⑥ 中心市街地活性化モデル体制の構築

新しい公共の担い手として複数のまちづくり団体が協議会を構成し、公益ビジネスの手法を駆使して事業の運営を担う体制づくりを確立します。

また、まちづくりを支援する地元金融機関、行政、大学、NPOが結合する「創造都市タイプ」のまちづくり実践を行うことを目標としています。今後は、旧イチローチ商店活用実験・改修の設計図の作成などを行う予定です。



## ❖ 復興拠点づくりを通して新しい公共の場構築事業（採択額660万円）

復興に向けた新しい公共の場づくり協議会（（特活）グラウンドワーク寒河江ほか）

気仙沼市津谷大沢区において情報などの連絡拠点やボランティア基地としてだけでなく、地域の復興コミュニティセンターとなる拠点施設を確保し、住民と支援者、企業、行政が一緒になって生活や産業などの復興のまちづくりをスタートさせ、続けられる“場”を創出し育てていくことを目指して活動しています。活動を通して、交流を深め、地域の枠を超えた新しい公共の場の確立を目指します。

私たちの活動は、多くの団体などとスクラムを組んで取り組んでおり、拠点となる「復興に向けた新しい公共の場づくり協議会気仙沼事務所」を津谷大沢区に設置しました（9月4日に開所式）。

拠点としての役割を確立させるための地域住民の方々による活用促進やボランティア支援者を含めたワークショップなどを重ねています。現地活動員の確保を含めて復興まちづくりについて話し合い検討する場としての組織づくりに取り組んでいます。

